

公共施設の 長寿命化対策は

富安 伸志 議員



急がれる公共施設の長寿命化計画

答 今後の計画策定を検討したい

問 公共施設は、住民の日常生活に欠くことができない施設であり、長く使っていくことが大切である。公共施設は長寿命化対策の方向に向かっていくのか。

建設経済部長 財政状況が厳しい中、国が施設の長寿命化の方向に向いているため、自治体でもその方向に向かわざるを得ない。

大規模施設の改修内容 広報やHPで

問 市民には公共施設の現状把握は極めて困難である。施設を利用する人が安心して利用するためにも、大規模施設の修繕すべき所を示すなど、日常的に施設の現状を示すべきだ。見解を尋ねる。

市長 大規模施設の改修の身など広報紙やホームページで説明していきたい。

問 公共建築物が更新時期を迎える中で維持管理など、これからの自治体にとって、重たい政策課題の一つになってくる。市全体の総合的な公共施設の長寿命化計画の策定が必要では。

総務部長 どれ位の水準のものを作るかで違ってくるが、財政運営上効率的にする視点で、施設の修繕箇所を集約して、今後の計画策定を検討したい。

市の子育て支援の ニーズ調査は

五十嵐 多喜子 議員

ニーズ調査は

問 厚労省によると待機児童の8割以上は0歳から2歳。国の社会保障給付費100兆円の7割が高齢者向けで、子育て世代は4%にすぎない。子育て支援のニーズは日々変化しており、子育てと

仕事の両立を後押ししなければならぬ。市の子育て環境の実態とニーズの把握はどうか。
市長 平成25年度には子供の調査を実施する予定だ。



子育て支援のニーズの変化に対応した施策を

答 子ども・子育て支援事業計画策定に向け実施予定

平成27年度には保護者の就労時間に応じた保育に対応する給付が創設される。

まちづくりは地域 を知ることから

問 まちづくりの講演会では「まちづくりは地域を知ることが前提にできない」と聞く。筑後市は交通網と共に栄えてきた。市内には、かつての薩摩街道、羽犬塚宿場町、今寺番所がある。どのように考え残そうとしているのか。

市長 筑後七国の広域での取り組みと筑後市独自の取り組みを継続し、新幹線利用者を含む観光客を呼び込む。番所は歴史的に意義深いと認識。復元は研究課題としたい。